江良歯科新聞

990-0075
山形市落合町
字二口203－1
編集：
江良歯科医院
江良謙次

インフルエンザと口腔細菌

インフルエンザがピークをむかえてます

風邪と口腔細菌の関係

インフルエンザは冬に流行します。１月１５日頃からの冬将軍の影響で山形でもインフルエンザがピークをむかえているようです。

歯科領域におけるインフルエンザの研究はあまり知られていません。今回はインフルエンザと口腔細菌の関係、インフルエンザ予防の最新情報をお知らせします。私が子供の頃は風邪の予防には人の集まる場所へは行かないようにとか、外出して家に帰ってきたら、必ずうがいをするよう言われたものでした。小学生の頃は、小学校で各自、持参のコップで皆でうがいをしたのを覚えてます。ここ１０年くらい前からは、WHOは、うがいよりも手洗いを徹底することを勧告しています。ただマスクの必要性については、なにも言われていません。たぶんマスクの着用は日本や中国、韓国の方だけの予防法なのかもしれません。

さて、インフルエンザウイルスが、歯牙に付着している歯垢（プラーク）や唾液中の主要構成レンサ球菌と遭遇すると、これらの細菌が産主生するプロテアーゼトというタンパクが、ウイルスに付いているある種のタンパク（ノイラミダーゼ）を活性化してウイルスの放出を促進し、感染の拡大を助長すると、言われてい↓

口腔細菌がウイルスを増加させる

インフルエンザの進行に関わっている

←いう口腔細菌はインフルエンザウイルスを増やすことが認められています。よくインフルエンザに罹ったら、抗インフルエンザ薬（ザナミビル・商品名リレンザ、オルセタミビル・商品名タミフル）が使用されます。これらの薬の働きはウイルスの表面に付いている、ある種のタンパク（ノイラミダーゼ）の働きを阻止しウイルスの感染拡大を抑制することで感染を抑える画期的な薬です。しかしStreptococcus mitisとStreptococcus oralisが存在する口腔内ではウイルスが放出されて、抗ウイルス薬の効果は抑制され、インフルエンザ薬が効かなくなることが判明しました。そうなると口腔ケアが不十分である場合、抗ウイルス薬による感染制御は困難になります。従って免疫力の低下している人や高齢者のインフルエンザ予防には専門的な口腔ケアが重要になってきます。Streptococcus mitisとStreptococcus oralisが存在しにくい環境にするには、毎日の丁寧なブラッシングと、歯間ブラシやフロスを上手に使うのが肝心です。また、

効かない抗インフルエンザ薬

専門的な口腔ケア

定期的な口腔ケア

舌ブラシを使ってみよう

舌ブラシを使った舌苔のお掃除も必要です。お求めは受付で。

参考文献：日本歯科医師会雑誌2015-2 Vol.67 No.11 1001-1009
落合邦康「そんな研究やめてください」口腔細菌はインフルエンザを重症化する

人類の脅威インフルエンザ

口腔ケアと定期的なメンテナンスが風邪を予防する

毎年インフルエンザによる感染者は国内で推定1,000万人、年間死亡者数は高齢者と幼児を中心に約１万人、全世界で約25～50万人にのぼるそうです。スペインかぜ、アジアかぜや香港かぜと２０世紀になって３回の世界規模の流行がみられました。現在でも鳥型の新型インフルエンザの脅威がたびたび伝えられ、2009年にはＨ１Ｎ１新型ウイルスが世界中にパニックをもたらしました。新型ウイルスによるパンデミックや薬剤耐性ウイルスの問題も深刻化するなどインフルエンザは今も人類の脅威になっています。それを予防するのは歯科医院での定期的な口腔ケアとメンテナンスです。口腔ケアはあなたと世界を救います。

インフルエンザウイルスの型

インフルエンザウイルスは抗原性の違いでＡ型、Ｂ型およびＣ型に分類されます。Ａ型ウイルスはブタや鳥などヒト以外にも感染しますが、Ｂ型とＣ型はヒトのみに感染します。毎年、冬季に流行を繰り返すのはＡ型とＢ型ウイルスで、主に感染経路は咳やくしゃみによる飛沫感染とウイルス付着物に触れた口や顔面などからの接触感染です。ですからうがいよりは、手洗いはこの時期大変重要になります。韓国で行われた実験ですが５０人はうがいをし、５０人に手洗いをしてもらいました。意外にも、うがいした群に風邪をひいたヒトが多かったという結果でした。